

令和3年度連携排砂等の実施結果に関する関係団体からの意見と対応について

【令和3年度連携排砂等の実施結果について】

関係団体名	関係団体の意見	対応（実施機関の見解）
海面漁業関係団体	<p>(入善漁業協同組合)</p> <p>① 漁業者の肌感覚として30万m³以下の排砂量では30万m³を超える排砂と比較して海域への負荷が全く違うように感じており、毎年の排砂量を30万m³以下に抑えることは出来ないのでしょうか。また、出来ないのであれば、排砂毎の量を抑えた複数回排砂を要望します。</p>	<p>① 現在の排砂・通砂の実施時期や方法等は、これまでも関係機関や関係団体からご意見をいただき、排砂評価委員会および土砂管理協議会等で評価・議論され、築かれてきたものである。</p> <p>今後もより自然に近い形での土砂移動が実現できるよう、専門的な知見より助言・指導いただき、また、関係機関や関係団体のご意見を伺いながら、検討してまいりたい。</p>

関係団体名	関係団体の意見	対応（実施機関の見解）
海面漁業 関係団体	<p>② 入善漁港間口に土砂が堆積し、波が立って漁船の入出港に危険が伴う状況となっています。</p> <p>入善漁港内の土砂の堆積厚については、平成16年度以降調査が行われていませんが、排砂が影響していると考えられる付近の土砂堆積状況の確認と土砂の除去または堆積しない等の対策に着手されるよう要望します。</p>	<p>② 黒部川や下新川海岸の工事・管理を目的として実施している測量成果より、黒部川河口や入善漁協間口付近の土砂堆積状況を確認することができることから、漁港管理者とも情報共有するなど協力してまいりたい。</p>

関係団体名	関係団体の意見	対応（実施機関の見解）
海面漁業 関係団体	<p>(富山県漁業協同組合連合会)</p> <p>③ 出し平ダムの排砂の条件として平成6年12月河床高を下回らないことになっている。今年度も河床高の一部を下回った点について既成事実化しないよう要望します。また連携排砂においては、これまで通り堆積土砂が変質する前に排砂を行うことや、より自然に近い形で排砂するよう要望します。</p>	<p>③ 令和3年12月の測量結果では、出し平ダムにおいて平成6年12月河床を猫又付近で下回っている状況が確認できる。平成6年12月河床とは「試験的排砂後の河床で、平成7年7月水害により覆われ土砂変質が懸念される」とされた河床である。</p> <p>なお、当該付近においてボーリング等により、堆積土砂の変質が無い状況を確認し、過年の評価委員会においても報告している。（第47回黒部川ダム排砂評価委員会）</p> <p>当該箇所は、出水時（排砂等）においては、土砂堆積が大きい箇所であり、猫又地区における施設の浸水被害防止のため、毎年土砂移動を行っている。この土砂移動工事では、平成6年12月河床を管理河床としているが、河川の流心となった箇所や雪解け出水等の影響により局所的に河床が洗掘されることで下回っているものであり、河床全体が下がっているものではない。引き続き、河床の管理に注意を払ってまいりたい。</p> <p>また、ご意見のとおり、これまでと同様に連携排砂・通砂においては、堆積土砂が変質する前に排砂を行うことや、より自然に近い形で排砂するよう取り組んでまいりたい。</p>

関係団体名	関係団体の意見	対応（実施機関の見解）
海面漁業 関係団体	<p>④ 関係漁協等から連携排砂の後、この時期のモズク等の藻類に土砂が付着して光合成が出来ず死滅するという声を聞いています。藻場は海中の窒素やリン等の栄養塩を吸収して光合成を行ない、酸素の供給や水の浄化をするだけでなく、様々な生物に隠れ場所や産卵場所を提供し、浅海域の生態系や生物多様性を支える重要な場所です。また近年では脱炭素社会の実現に向け、沿岸域の藻場等に取り込まれるブルーカーボンにも注目が集まっているところです。</p> <p>藻場・漁場保全策として漁業関係者や水産研究所と連携し、水産資源及び海洋環境の視点も含め、藻場造成等の幅広い漁業振興対策の取組を実施するよう要望します。</p>	<p>④ 令和2年度より下新川海岸で実施している藻場保全試験施工箇所のモニタリングでは、藻類等が生育、生息していることを確認している。</p> <p>令和3年度も、引き続き富山県水産研究所と連携して、下新川海岸での藻場保全の試験施工を実施しており、関係機関と協力して環境に配慮した整備に努めてまいりたい。</p>

【令和3年度連携排砂等の実施結果について】

関係団体名	関係団体の意見	対応（実施機関の見解）
内水面漁業関係団体	<p>① 細砂の堆積による河床上昇は、今年の河口より1km付近までから上流11km付近まで急激に広がっている。河口付近では、細砂の堆積による河口閉塞が鮭や鮎等の遡上を妨げ、また河口より上流11kmまでの河床上昇は、細砂が堆積することで河床の礫に水が接する表面積を少なくし、湧水箇所が埋没して魚類にとって住みづらい川に変えてしまっている。</p> <p>これらは、連携排砂・通砂が主要因であることは確かであり、この堆積した細砂の移動や除去の措置を大至急検討いただき、実施してほしい。</p>	<p>① 黒部川では、排砂等の実施を含む洪水により河道内で流下する土砂の堆積・侵食を繰り返しているものと考えている。</p> <p>また、黒部川では毎年河川測量を行っており、土砂の堆積により治水や河川環境上で問題がある場合は、樹木伐採や河道掘削等の必要な整備を行っている。</p> <p>なお、治水上の目的で実施している樹木伐採や河道掘削、護岸等の整備にあたっては、『魚にやさしい川づくり検討委員会』等の場を通じて、漁業者や学識経験者の意見を聴きながら河川環境に配慮した整備に努めてまいりたい。</p>

関係団体名	関係団体の意見	対応（実施機関の見解）
内水面漁業 関係団体	<p>② 連携排砂・通砂は、細砂や浮遊泥により河川の濁りを引き起こし、魚類の生息と鮎のエサとなる珪藻類に重大な影響を及ぼしている。</p> <p>排砂規模や実施時間の違いによる環境への影響度合いに加えて、別の観点からの分析、調査及び検証等も検討いただき、あらたに実施してほしい。</p> <p>例えば、河川本来の働きは、水の流れによる土砂の浸食、運搬、堆積であり、この繰り返しのよって浮き石の多い瀬や、砂礫底の淵、入り江となって流れるゆるやかなワンドなどが作られる。このような水辺環境が、鮎にとってエサを採ったり、休んだり、隠れたり、繁殖する等の生活をする大切な場所となっている。</p> <p>今の黒部川において、この『エサ場』『休憩場所』『隠れ場所』そして『産卵床』を特定し、排砂前後の変化を分析・調査及び検証することで、如何にすれば『魚にやさしい川づくり』に繋がるかの検討をお願いしたい。</p>	<p>② 令和3年度は、やすらぎ水路の再生やアユの産卵に適した河床造成試験、河川内の湧水調査・湧水マップの作成等を行っている。</p> <p>令和4年度も引き続き河川環境に配慮した整備を実施することとしているので、『魚にやさしい川づくり検討委員会』等の場を通じて、漁業者や学識経験者の意見を聞きながら進めてまいります。</p>

【令和3年度連携排砂等の実施結果について】

関係団体名	関係団体の意見	対応（実施機関の見解）
農業 関係団体	<p>① 近年、農業は、担い手農家等に農地が集約され、大規模経営となっております。</p> <p>そのため、担い手農家等は、水の必要な時期が以前と比べ長期間必要となっており、連携排砂による断水時期と農作業の関係に強く不安を抱いております。</p> <p>こうした農業情勢の変化を充分考慮され、連携排砂の時期を再検討していただくとともに、情報提供の更なる周知に努めていただきたい。</p> <p>また、農作業の時期的な影響を最小限にするため、連携排砂及び通砂による合口用水の取水停止時間が長期化しないよう検討願います。</p>	<p>① 現在の排砂・通砂の実施時期や方法等は、これまでも関係機関や関係団体からご意見をいただき、排砂評価委員会および土砂管理協議会等で評価・議論され、築かれてきたものである。</p> <p>今後とも、関係団体と連携を密にしてご理解・ご協力を得ながら、連携排砂の実施時期が適切なものとなるよう努めてまいります。</p> <p>また、令和3年度から「連携排砂の体制・実施情報の情報提供の改善」として、Twitterで連携排砂の体制・実施状況を伝達する取組を行っている。これに加え、「連携排砂の予報」（可能性の高い・低い降雨日の情報）を2～3日前にホームページやTwitterで提供する取組も行っている。</p> <p>引き続き、連携排砂等を実施するにあたっては、地域の皆さまにご理解とご協力が得られるよう、分かりやすい広報、情報提供に努めてまいります。</p> <p>合口用水の取水停止時間については、関係各所と意見交換等を行い、短縮に向けた実現可能な改善策がないか引き続き検討してまいります。</p>